

中学校英語科グループ研究会

グループ員：寺井 浩治 (南中学校) 藤中 政徳 (東中学校)
堺 晶浩 (西中学校) 佐々野 綾美 (北中学校)
井本 直樹 (天王寺川中学校) 有田 直人 (天王寺川中学校)
河田 知子 (天王寺川中学校) 西本 大和 (松崎中学校)
池田 拓朗 (荒牧中学校) 貴志 亮 (笹原中学校)
奥村 優一 (笹原中学校)

担当指導主事：村上 大介

キーワード：小中連携 帯活動

1 研究テーマ

「生徒の英語力を伸ばす帯活動～自己表現力を育てる基盤づくり～」

2 研究内容

平成 31 年度は、研究の 1 年目として、帯活動についての知識を深め、来年度以降の研究と実践を行うための土台作りを行う。

(1) 帯活動についての共通理解

英語科教員研究会における京都外国語大学 杉本義美教授のご講演資料や、帯活動のビデオ視聴、またグループ研究員の公開授業を通して帯活動についての考え方を研究員全員で確認する。

<帯活動の基本的な考え方>

毎時間、10～15 分程度、以下のような取組を通して、段階的に自己表現活動を行う。

- ・既習表現と新出表現を組み合わせる繰り返し学習
- ・Q&A プラクティス(生徒が質問する場面の設定)
- ・Discourse を意識したコミュニケーション活動

(2) 事例研究

各校の取組や公開授業における帯活動について、上記の考え方を視点とした振り返りを行う。



3 成果と課題

(1) 成果

- ① 英語科の研究の中核組織として研究グループを立ち上げたことで、研究の推進が図れた。各学校で帯活動を実践する上での方向性を明確にすることができた。
- ② 各校の代表である研究員の間で、帯活動についての共通理解が図れたことで、各校の研究の充実が期待できる。
- ③ 帯活動を実施した授業を見て協議をしたことで来年度に向けての帯活動の方向性が見えた。

(2) 課題

- ① 研究 2 年目において、各校での実践を行いながら、帯活動の具体的な指導方法についての検討が必要である。
- ② 英語科教員全体での、帯活動の考え方について共通理解が不十分である。英語科全体での

研究でのリンクを図るとともに、研究員を中心とした各校での実践内容の見直しを図る必要がある。

- ③ 帯学習をただのウォーミングアップとして捉えず、その時間のターゲットに繋がるような学習にするために、今後、さらなる協議を繰り返し、市内全体での実施に向けて取り組んでいく必要がある。